

【授業の到達目標および概要】

分子生物学特論の知識に基づいて、具体的に、核酸抽出、遺伝子増幅法、形質転換など、分子生物学的手技を理解し、簡単な操作が出来るようになる。ディプロマ・ポリシーの専攻分野における研究能力に關与する。

【授業計画】

- ①② 核酸抽出法の実際
- ③④ 遺伝子増幅法の実際
- ⑤⑥ 遺伝子組換え実験の実際
- ⑦ まとめ

【授業外学習】

履修者が予定している研究テーマに関する文献を検索し、使用されている分子生物学手技について学習をする。1回の授業の予習復習時間として計200分以上行うことが望ましい。

【成績評価の方法・基準】

レポートにより評価を行う。提出レポート等に対して、コメントのフィードバックを行う。

【教科書】

特になし

【参考書】

1. 佐久間慶子、福島亜紀子著 栄養と遺伝子のはなし—分子栄養学入門 技報堂出版
2. 有波忠雄、太田敏子、清水淑子、福島亜紀子、三村邦裕編 メディカルサイエンス遺伝子検査学 近代出版
3. 田村隆明、山本雅編 分子生物学イラストレイテッド 羊土社

【教材】

随時プリントを配布する。

【備考】

特になし